

# 松本市教育研修センターだより

No.42 令和7年9月30日

## 学びの秋、共に創る未来の教育

ようやく残暑が和らぎ、さわやかな秋風が吹く9月末。教育研修センターでは、先生方の専門性を高め、子どもたちの豊かな学びを支える多様な研修会を用意し、共に学んできました。今月の研修は、子どもたちの学びの根幹を支える「**教科指導の深化**」、未来の学校像を描く「**新しい学校文化の創造**」、そして一人ひとりの教育者を支え育む「**専門性とリーダーシップ**」という3タイプの研修が主に行われました。

「**教科指導の深化**」を目的とした算数・国語・社会科の各授業づくりゼミでは、教材の核心に迫り、松本大学の先生方と子どもたちの思考を揺さぶる授業デザインについて熱心に考え合う時間となりました。日々の授業をより豊かにするための、具体的で実践的な学びが深まっています。

「**新しい学校文化の創造**」を目指す研修では、木村泰子先生と共に「みんなの学校」の理念を学んだり、丸ノ内中・旭町小の実践から「探究的な学び」や「子どもが創る学校行事」の可能性を探ったりしました。これらの研修は、子どもたち一人ひとりが主役となり、自ら学び、学校を創っていくための重要な示唆を与えてもらいました。

さらに、特別支援教育や自立支援、ミドルリーダー育成といった「**専門性とリーダーシップ**」に関する研修も充実しました。信州大学医学部本田秀夫先生や長野県発達障害・支援センターの宮内かつら先生、また先生の幸せ研究所の澤田真由美さんといった専門家から直接指導を受ける機会は、個々の先生方の専門性を高めるだけでなく、松本市の教育を牽引する次世代のリーダーを育む大きな力となっています。

これらの研修を通して得られた知見や情熱が、下半期の各校の教育活動をさらに充実させ、子どもたちの「やってみたい!」という輝く瞳につながっていくことと思います。実りの秋、先生方一人ひとりの挑戦が、松本市の教育の未来を豊かに耕しています。



## 木村泰子先生 学校を訪問して道徳の授業

「“結” まつもとと学びの日」講師、大阪市立大空小学校初代校長木村泰子先生が、9月10日に清水小学校、11日に会田中学校を訪問し、全校児童・生徒と共に道徳の授業を行いました。昨年は小学校の様子をお伝えしたので、今回は中学校の様子をお知らせします。

木村先生は、過去の「反省」ではなく、「未来は何とでも作れる」という考えから、「やり直し」の大切さを語りました。この言葉は生徒の心に深く響き、「やり直しのきく世界」であれば、失敗を恐れず物事に一番向き合えるという前向きな気づきとなったようです。(次頁生徒のふり返しより)



授業は終始「楽しく、気軽に意見を言える雰囲気」で進み、生徒たちは「人権＝空気」という考え方や、「障害は個性であり、多数派の思い込みによって生まれる」という視点に感銘を受けました。多くの生徒が『ふつう』とは何か」という根源的な問いに向き合い、「これからは周りに流されず、自分がどうしたいかを決めて行動する」と決意を新たにしました。

### 生徒のふり返りから

- 流れに逆らわずに流れるまま～は楽。他の人と違うと不安になるし、恥ずかしいし、気まずいし、人からどう見られてるか気にしちゃうし。でも、一緒ではなんかだめだなんて思っていたけど、なかなかできない。でも、今日話を聞いて、学校目標をもう一度見返して、「自らに問い・共に考え・決めて・行動する」ということにハッとした。違うことをするんじゃないくて、自分で考えて「こうする！」と決めたことを曲げずに精一杯やるのが大事って思った。生徒会のみならず全校のみならず先生方とみんなで考えて、みんなで学校が作れたらすごくいいなと思った。そうするために、思ったことは自分も含めて、バンバン言ってほしい。で、それについてみんなで考えられたら、いいなって思った。考えないで流れに流されるんじゃないくて、自分の考えをきちんと持てるようになりたい。(後略)
- 今まで自分は正直みんなが流れていく方に行っていた。最後のメッセージがどっちに行くのかを自分で決めてくださいという意味と、流れのままに流れ人じゃなくて自分で決めて動こうという意味にも思えたから。これからは、周りがどうするのかではなく、自分がどうしたいのか、行動できる人になっていきたい。何度も失敗してやり直して、いつかは絶対成功する、そのための経験の場として、学校生活を送っていきたい。

## 校内研修をみんなでつくってみませんか

今年度開講した“校内研修を創る研修”では、「校内研修を進めたいけれどどう進めたらいいのか?」「校内研修を効果的に進めたい!」などと思いをもちた先生方が集まって、校内研修設計について学んでいます。これまで2回実施し、オープニング編、メインアクティビティ編を行いました。今回は、研修の肝となる、オープニングについて紹介します。その中でも特に大切にしたいアイスブレイクについてお伝えします。

### ○アイスブレイク (チェックイン)

「研修」と聞くと、構えてしまう人もいますよね。普段から一緒にいる同じ職場の仲間であっても、ちょっとした緊張感は生まれるはず。その雰囲気をやわらかくするのが、アイスブレイク。参加する人の余計な不安を取り除き、緊張をほぐし、その場にふさわしい雰囲気作りが大切です。

#### ☆アイスブレイクの7つの目的☆

- ①緊張をやわらげる
- ②みんなの名前を覚える
- ③お互いの理解を深める
- ④眠気を覚まし集中力を高め、リフレッシュする
- ⑤グループに分ける
- ⑥チームワークを高める
- ⑦視点やメッセージを伝える

#### 「適切な関係性を紡ぐ」

参加者同士の関係性が良い状態であれば、自然とその場も良くなります!

#### 「リワイヤリング」

いつものメンバーなら安心するかもしれませんが、同じメンバーだけだと起こることは変わらない。違うメンバーでやり取りをするためにも、心理的安全性の確保は大事です!

すぐに研修に入ってしまうのではなく、まずは雰囲気作りが大切です。「なんか、今日の研修は楽しそう!」なんて思ってくれたら、その研修のスタートはOKです。

次に、研修の目的を丁寧に説明します。この研修は、「何のために行うのか」「研修が終わった時どんな姿になっているのか」というビジョンの共有をします。研修の目的は「学習者が学ぶこと」です。参加した人が何を学ぶかを明確にすることで、参加意欲も高まります。残念ながら紙面の都合上、ここまでは書けませんが、興味のある方はぜひ「校内研修を創る研修」にご参加ください。

